

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援放課後等デイサービス にじいろアルファ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 19日		～ 2025年 3月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31人	(回答者数) 20人
○従業者評価実施期間	2025年 3月 3日		～ 2025年 3月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを理解し、こどもの特性等に応じた支援を行うことができている。	利用者様一人ひとりとの関わりを大切に、日々の療育では効果的だった声掛けや関わり方について振り返りの時間に話し合っている。特性を踏まえた上で、集団遊びや苦手意識のあるものにも無理のない範囲で声を掛け、促し、時には見守る等の支援を行っている。	午前中などにこども達の最近の様子の変化や有効な声掛け、関わり方について密に話し合っていく。今後、利用者様にも聞き取りを実施すること、標準化されたアセスメントを用いながら職員間でしっかりとすり合わせをし、個別支援計画を作成していけるよう見直していく。
2	日頃からこどもの状況を保護者様と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができている。	通所した際の表情や声など、普段と違う様子がないか視診を大切に、職員間で共有している。保護者様へ良かった出来事だけでなく、活動する上での困難だったこと、その際の支援方法、どの様にしたら～できた等具体的にお伝えしている。また、気になる様子があった際には、送迎時に最近のお家での様子等も合わせながら話をお伺いしている。SNSを用いてこまめなやり取りやスムーズな連絡を行う事ができている。	些細なことでも利用者様、保護者様共に話しやすい雰囲気づくりや、送迎対応などの日々のやり取りや関わりを大切にしている。何った内容に合わせて、電話や面談の時間をとる等、各ご家庭の声を職員間で随時共有し、保護者様との共通理解を深めていけるよう努めていく。
3	児発からそのまま入所することで切れ目のない支援を行うことができる。	合同イベントを実施することにより、環境の変化や新しい場所に対応することが難しい児童でも安心して通所することができる。児発からの引継ぎをしっかりと行い、事業所内で改めてミーティングを行うことで入所する前の段階で全職員で情報を把握することができる。	就学後も児発と情報共有をしながら連携をとり、手厚い支援を提供できるよう努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	限られた活動スペースの中でどう広く空間を確保していくか、玄関前の階段に対する工夫	都度見直してはいるが、物の配置が最適ではないと感じる。おもちゃの量が多く片付けやすさに欠けている。玄関前の階段の角度や段差が急である為、見直しが必要である。	物の配置を変え、活動スペースには極力障害物となる物を減らしていく。おもちゃの量や物を選定し、片付けやすい環境を整えていく。玄関前の階段自体を変えることが困難な為、取り外しのできるスロープを導入する等、要検討していく。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会について	地域周辺のゴミ拾いや、公園、公共施設等への外出や外遊び等は実施している。希望があるか把握が出来ていないことや、企画をしての交流の場や、児童館などの様な形で行う等の前例が今までになく、話し合いを行えていないことが要因である。	まずは保護者様にその様な希望があるか伺う必要がある。実際にどの様な形で開催している事業所があるかをリサーチし、自事業所でも実施出来そうなものをピックアップする等、実現に向けて職員間で話し合いの場を設けていく。
3	家族で参加できる研修会や情報提供の機会、保護者会等の保護者同士の交流の場について	参観の場を設け、希望のあった全体の約2割程のご家庭には参加していただいた。しかし、研修会や交流の場においてはニーズの把握が出来ていなかった。	ご家庭に配布し、アンケート形式による事前調査を行う。今後実施するにあたり、専門的な機関支援事業所と連携し、どの様な形で行うことが出来るかを具体的に検討していく。